

平成27年低山歩き1

鍋足山縦走 5288.9m

平成27年1月17日(土)



三角点峰から鍋足の全容を見る

顔ぶれが、黒羽支所に揃った。参加者は9名。名誉会長から激励の言葉とお手製の肉じゃが、大根とジャコの煮物を載せて車2台に分乗して出発する。

猪ノ鼻峠の一里塚ロードパーク駐車場は、辺り一面凍結していた。車1台を下山口の太田市役所里美支所へと回送する。肌

を刺すような寒さの中、装備を整え入念にウォーミングアップをする。

8時50分 登山開始。

登山口付近の杉林の森には雪があった。朝の冷え込み、吐く息は白い。程なく進むと、木々の間

から朝日が差し込み、うっすらと漂う朝霧と杉林の空間を幻想的に映し出していた。間もなく足下の雪はなくなり、無風の静まり返った山には、落ち葉を踏む音とみんなの楽しそうな声が響いていた。

何度かアップダウンを繰り返しながら小中宿分岐を見送り、黒沢山のピークに到着。三角点と勘違いをした。この先、三角点まではトラロープの張られた登り下りを何力所か通過し、ナイフリッジも登場する。急斜面のロープを使った下降では、昨年の那須朝日岳でのアンザイレンの訓練が頭をよぎったが、あの時の事を思えば・・・今日は楽勝です。また、鍋足山の岩石は、バリバリに割れていて全体的に角張っており、とても硬いため、岩が丁度良い足場となって全員難なくクリア。

三角点に到着。ここまで休憩なしだったので、一息入れる。今年初めての山とあって、みんな楽しそうです。三角点から少し歩いた緩やかな尾根道の両側には、立派な幹を持った山桜が根こそぎ倒れていた。何度も繰り返し巡る春の季節に、一斉に可憐な花をつけ、幾度人々の目を楽しませてくれたのだろうと思うと、感慨無量だった。

水分とエネルギー補給を済ませ暫く進むと、真っ正面に3つ



のピークが見えて来た。鍋足山だ。目指すは一番左手の頂。先はまだ長そうです。

鍋足展望台から下って、鍋足山を巻くように進むと、岩場が現れた。よく見るとロープもくさりもない。岩はごつごつとしているため、ホールド感は良かったが、幸いにも岩が凍結していなかった事に胸を撫で下ろした。岩場を慎重に進んで展望台下分岐点までいったん下り、山頂下から最後の登りに入る。足下の雪と落ち葉ですべりやすい。注意を払いながら登って行く

と展望が開けた。鍋足山に到着です。山頂は風が強く、小広い頂きには、四方に太く、しっかりと根を張った1本の松の木が風に向かって立っていた。風を避けて、それぞれの持ち寄り、名譽会長の愛情のこもった差し入れをいただき、お腹も心も大満足。大変おいしく戴きました。ご馳走さまでした。

支度を整え、下山開始です。歩きながら、「雪山讃歌」を合唱して鍋足山に別れを告げる。気のせいなのか、それともこの山



の雰囲気からなのか、今日はいつになくゆったりとした時が流れているように感じた。今年初めての山行は、岩場やロープ、くさがりが多くあり、スリリングで楽しい時を過ごす事が出来ました。一日お疲れさまでした。そして、今年も宜しくお願います。

(市村洋子 記)



う〜寒い！早く回送こないかな〜！猪ノ鼻峠にて



三角点峰





山頂にてハイポーズ！！



ナイフブリッジと鍋足山由来の山容



三角点峰に立つ概念看板

- と き 平成 27 年 1 月 17 日 (土)
- と ころ 鍋足山 (△529m)
- てんき 晴
- あ し 植竹車、海津車
- おあし 1,500 円
- 参加者 市村 洋子、坂本 喜代子、植竹 健治、斉藤 洋子、大金 宣代
佐藤 恵美子、海津 均、頼高 るみ子、金丸 成子 9 名
- 役 割 植竹 (CL)、海津 (SL)、市村(報告)、佐藤 (会計)、頼高 (記録) 海津 (撮影)

- コースタイム
 黒羽支所＝道の駅・奥久慈だいが＝猪鼻峠 (車回送) ー三角点峰ー鍋足山
 7:00 8:15 (8:40) 10:15 12:05
 (昼食) ー旧里美村役場 (会計清算) ー湯葉の里＝和知宅＝黒羽支所
 ~12:45 1:45 16:00

